

開催にあたって

会長・プログラムオーガナイザー 秋下 雅弘 (東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 教授)

わが国は、国民の4人に1人が65歳以上、8人に1人が75歳以上という世界が経験したことのない超高齢社会を迎えています。

そして、わずか10年後には、団塊の世代700万人が75歳以上となり、医療・介護の負担が国と国民に重くのしかかる2025年問題と呼ばれる危機を迎えます。

なぜならば、65～74歳の前期高齢者は要介護率4%程度と病気を抱えつつも元気な方がほとんどであるのに対して、75歳以上の後期高齢者の要介護率は3割に達するからです。このように、高齢者の健康問題では、要介護の回避、つまり健康寿命の延長こそが喫緊の課題であり、わが国の将来を左右する一大事であるとも言えます。

要介護状態を回避するには、その前段階であるフレイル(Frail)の対策が何より重要です。フレイルは、サルコペニアなどの身体的問題の他に、認知機能障害やうつなどの精神的問題、そして社会的問題までを含む多面的な概念で、治療やケアにより可逆的に回復しうる状態を指します。フレイルの危険因子は、食事や睡眠、運動などの生活習慣、そして糖尿病などの生活習慣病であり、若年期から取り組むべき課題であることも明らかです。

今回の研究会では、健康長寿という古くて新しいテーマを取り上げ、各種ホルモンとの関係について、トップランナーの研究者にご講演いただく企画を立てました。

いずれもホルモンとフレイルの各要素、危険因子を取り上げた演題であり、最新の研究成果を披露いただけるものと期待しています。

どうぞご来場の上、最先端の科学をお楽しみください。

プログラム

9:30~9:40

Opening Remarks

秋下 雅弘

東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 教授

9:40~10:30

ホルモンとフレイル

小川 純人

東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 准教授

10:30~11:20

インスリン・IGF-1シグナルとサルコペニア

笹子 敬洋

東京大学システム疾患生命科学による先端医療技術開発 特任助教

11:20~12:10

百寿者におけるホルモン動態

新井 康通

慶應義塾大学医学部百寿総合研究センター 専任講師

12:10~13:20

ランチオンセミナー 共催：第一三共株式会社

心疾患治療におけるRAASの重要性～心保護、腎保護をいかに行うか～

瀬在 明

日本大学医学部外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野 講師

13:20~13:30 休憩

13:30~14:20

消化管ホルモン(特にグレリン)と健康寿命について

米川 忠人

宮崎大学医学部神経呼吸内分泌代謝内科 助教

14:20~14:30 休憩

14:30~15:20

脳内性ホルモンと神経機能

川戸 佳

東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 教授

15:20~16:10

睡眠・概日リズム調節とホルモン

北村 真吾

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 精神生理研究部 臨床病態生理研究 室長

16:10~16:20

Closing Remarks

秋下 雅弘

東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 教授

第7回抗加齢内分泌研究会

ホルモンと健康長寿

9月6日(日曜日) 9:30~16:20

開催
場所

東京大学 伊藤国際学術
研究センター

東京都文京区本郷7-3-1
(東京大学 本郷キャンパス内)



参加申込方法

裏面の必要事項にご記入の上、メールもしくはFaxにてご応募願います。参加費の納入確認後、参加登録完了の通知をメールもしくはFaxにてお送りいたします。

主催：日本抗加齢医学会分科会抗加齢内分泌研究会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-10-4-313

Tel. 03-6402-2610 Fax. 03-6402-2601 E-mail. hormone@anti-aging.gr.jp